

令和 6 年度事業報告書

(令和 6 年 4 月 1 日から令和 7 年 3 月 31 日まで)

法人の概要

法人の名称：公益財団法人 五井平和財団

設立登記日：平成 22 年 4 月 1 日

法人の目的：社会教育等の様々な分野において、平和に関する普及啓発及び調査研究等を行うとともに、国際理解に資する交流事業等を行い、もって世界平和に寄与することを目的とする。

法人の所在地：東京都千代田区平河町 1-4-5 平和第 1 ビル

公益目的事業 1 平和教育・平和普及啓発事業

1. 講演会等の普及啓発

(1) 設立 25 周年記念五井平和財団フォーラム

開催日 令和 6 年 11 月 30 日 (土) 15:00~18:00

会 場 日経ホール

テーマ PEACE TO PEACE

参加者 525 名 (内 大使館 27 カ国 27 名)

視聴回数 日本語：1,155 回 英語：347 回 (YouTube)

内 容 第 1 部

開会挨拶

五井平和賞受賞記念講演 (ビデオ出演)

平和賞受賞者 ジェーン・グドール / 動物行動学者、自然保護活動家
歴代五井平和賞たちの英知

出演者 2016 年度受賞者：ハフサット・アビオラ=コステロ /
ウィメン・イン・アフリカ・イニシアティブ代表

2019 年度受賞者：ニッポン・メータ / サービススペース創設者

第 2 部

ダイアログセッション：平和への新たな飛躍

出演者 ハフサット・アビオラ=コステロ

ニッポン・メータ

魚谷雅彦 / 株式会社資生堂代表執行役 会長 CEO

西園寺昌美 / 五井平和財団会長

モデレーター 西園寺裕夫 / 五井平和財団理事長

(2) 講演会

① 「講演会シリーズ：21 世紀の価値観」オンライン配信

第 68 回講演会

講 師 垣内 俊哉 株式会社ミライロ 代表取締役社長

テーマ バリアバリュー ～障害を価値に変える～

開催日 令和 6 年 6 月 29 日 (土)

参加費 賛助会員・学生 1000 円、一般 1500 円

参加者数：合計 160 名

(内訳：賛助会員 123 名、一般 12 名、個人特別会員招待 25 名)

第 69 回講演会

講 師 安西 祐一郎 一般社団法人交詢社理事長、工学博士

テーマ AI の時代をどう生きるか

開催日 令和 6 年 9 月 29 日 (土)

参加費 賛助会員・学生 1000 円、一般 1500 円

参加者数：合計 178 名 (内訳：賛助会員 127 名、一般 20 名、学生 2 名、個人特別会員招待 29 名)

②中高生キャリア支援プログラム「私のコンパス」オンライン配信

第 7 回

講 師 松田 文登 株式会社ヘラルボニー代表取締役 Co-CEO

テーマ 「福祉×アート×ビジネス」で人々の意識を変える

開催日 令和 6 年 8 月 27 日 (火) 15 : 15 ~ 16 : 45

参加者数 合計 81 名 (中高生 69 名、オブザーバー (教員等) 12 名)

(3) Living New ワークショップ

人が輝ける生き方を応援し、人と人、人と社会をつながけながら、新しい未来をつくっていくプロジェクト

○あるがままの自分を知る・気づく・見つめる場の提供

○人の在り方、考え方、感じ方の多様性を共感、共有する場の提供

○自分の特性を社会に活かすサポート

オープンカフェ東京 令和 6 年 8 月 25 日 (日) オンライン開催 13 名

(4) 賛助会員との交流および活性化事業

①2024 年度五井平和財団会員総会「報告と感謝の集い」

開催日 令和 7 年 2 月 11 日 (祝・火) オンライン配信

対 象 五井平和財団賛助会員および五井平和財団に関心のある方

視聴者数 372 名 (内 Zoom 参加 90 名) 再生回数：429 回

内 容 事業報告、賛助会員との交流、質疑応答など

②地方懇談会 令和 6 年度は開催せず

③ボランティア活動

ーコミュニケーター制度

コミュニケーター通信 Vol.48 ~ Vol.50 発刊

ーピースフル・プロジェクト

月間テーマ

4 月 この時代を生きる良さを考えよう / 5 月 大自然への感謝と共生

6 月 すべての違いの尊重 / 7 月 精神と物質の調和

8 月 生命の尊厳 / 9 月 手助けが必要な人に手をさしのべよう

10 月 心と身体を大切にしよう / 11 月 芸術に触れよう

12 月 デジタルデトックスを心がけよう /

令和 7 年 1 月 新しいことにチャレンジしてみよう /

2 月 人を元気づける言葉をかけよう / 3 月 男性性と女性性の良さを認め合おう

ー作文選考ボランティアとの対話会

8 月 26 日 (月) 13 : 30 ~ 15 : 00

参加者数 10 名

(5) 国際理解に資する交流事業

①国連・ユネスコとの交流事業

- ユネスコ主催・ESD-Net ラーニング・ウェビナー（令和6年5月29日「ESDに関するホールスクール & インスティテューション・アプローチ」、および9月26日「ESDにおける能力の学習と評価」）にオンライン参加
- 令和6年11月30日 文部科学省・日本ユネスコ国内委員会・ACCU 主催、ユネスコ共催「ユネスコウィーク 2024/2025『第16回ユネスコスクール全国大会』（於国立オリンピック記念青少年総合センター）にて、分科会「社会との相互作用を通して創る探究の学び ―「できない理由」から「できる方法」を若手教員と考えるワークショップ―」を運営

②国際機関・海外民間団体との交流事業

- 千代田区教育委員会、駐日モロッコ王国大使館、ラバト市教育委員会との連携事業として、国際交流プログラムを実施

＜詳細は4. 駐日外交官等国際交流プロジェクトで報告＞

- Unity Earth との共催で Tokyo Convergence 2024 を開催
 - 9月16日（祝・月） 明治神宮参拝、歓迎交流会
 - 9月17日（火）9:00～15:00
会場：ホテルニューオータニ東京 鳳凰の間
参加者：Unity Earth ゲスト 53名、日本人ゲスト 43名
内容：自己紹介、和の精神のプレゼンテーション、グループディスカッション「内なる平和・精神性を深めた体験」、「平和な世界構築のための戦略」発表、参加者たちの戦略発表、参加者たちの平和への取り組み発表など
- Home for Humanity との共催で Peace Convergence 第3回を開催
 - 3月6日（木）SOW 交流会
 - 3月7日（金）Peace Convergence 第3回
会場：国際文化会館講堂、セミナールームD
参加者：29名
内容：7世代先の未来のために、7年かけて世界195カ国を回り、平和を築くための英知を世界配信する取り組み「One Home Journey」の紹介と英知の共有、『生命憲章』の四原則「生命の尊厳」「すべての違いの尊重」「大自然への感謝と共生」「精神と物質の調和」のプレゼンテーション、2030年の未来像発表など

③ May Peace Prevail On Earth International（姉妹団体）日本オフィス活動協力

ー第32回広島ピースセレモニー

8月6日（火） 原爆ドーム前+オンライン配信

MPPOE ニューヨーク・オフィス、SINE Network（米国）と共催

約4400名の参加者

吉川里香 MPPOE International 副理事長スピーチ

ー第25回長崎ピースセレモニー

8月9日（水）長崎平和公園（原爆落下中心地）+オンライン配信

約170名の参加者

吉川里香 MPPOE インターナショナル副理事長挨拶

ーPeace Prevails Program 普及支援

MPPOE インターナショナルが開発した小学生向けの平和教育教材

とその活用のための教員トレーニング・プログラムの普及支援

ー日本語ウェブサイトおよびメールマガジン等による情報発信

<http://www.worldpeace-jp.org/>

ー平和普及自主活動

年月日	活動内容
2024.03.16-7.25	バルチック・サイクル・ツアーのグループがパリ五輪に向けて、東京ーパリ間の平和走行を行い、ピースドールのプレゼント活動 参加約 30 名
2024.4.5	イタリアのトレンティーノ市のドン・ボスコ総合学園にて WPPC 開催 小学生 390 人と教諭 70 名参加
2024.04.10	京都大徳寺塔頭 大仙院にピースポール建立 参加 10 名
2024.04.11	アメリカのミシガン州の国際ロータリ本部前にピースポール建立 参加 20 名
2024.06.15	フランスのパートナー団体、Home for Humanity にピースポールを贈呈し、 建立。現地 20 名、オンライン 50 名参加
2024.06.21	夏至の日のリレーWPPC に全国から 155 名参加
2024.06.21	福井県の毛谷黒龍神社にて WPPC 現地 41 名、オンライン 43 名参加
2024.10.20	岡山県日詰山サムハラ神社にて第 9 回 WPPC 開催 参加約 140 名 (現地+オンライン)
2024.08.1 – 10.21	福井県の神社でピースポール修復 7 本
2024.09.21 国際平和デー	ポーランドのワルシャワ市平和公園で国際平和デー行事を開催 ナイジェリア・アブージャ市のホテルにて国際平和デー記念式典。平和賞のトロフ ィーとして卓上ピースポールを 33 名に贈呈。参加約 200 名 テレビと新聞で報道
2024.09.23	秋分の日リレーWPPC に全国から参加 52 名
2024.09.24	アメリカのシカゴピースデーにて 1000 人規模のフラッグセレモニー
2024.09.25	ドイツのニーダー＝オルム市が、平和市長会議のメンバーとして、ピースポールを 市役所内に建立
2024.11.03	ウクライナの激戦地だったイルピン市に平和歩行者のダニー・ガルシア氏がピース ポール建立
2024.11-12	福井県の神社でピースポール修復 7 本
2024.12.23	冬至の日リレーWPPC で全国から参加 80 名
2025.03.01-3.10	ピースウォーカーのダニー・ガルシア氏が、南極にて May Peace Prevail on Earth の横断幕で平和活動
2025.1.13-30	福井県で 5 本のピースポール修復
2025.03.20	春分の日リレーWPPC に全国から参加 70 名
2025.3.20	島根県の龍雲寺で 16 言語を載せた特注の八角柱ピースポール 2 本追加建立

(6) 「富士宣言」推進 (パートナー組織および事務局として)

① ソウル・オブ・ウィメン

・女性の会：幹事会定期開催 (6 月 3 日、10 月 20 日、11 月 15 日、
2025 年 1 月 14 日)

・SOW×Home for Humanity 交流会 2025 年 3 月 6 日 10 名

・財団フォーラム&レセプションでの交流 11 月 30 日 参加 5 名

② 富士宣言 9 周年企画 テーマ:「神聖なる精神」を深めるプログラム

・世界のピースリーダー 3 名と富士宣言の共同発起人である西園寺裕夫理事長からの
テーマに関するメッセージビデオを YouTube、ブログ、メルマガにて配信

(7) 各種情報媒体の活用

① 機関誌「平和の創造」発行

季刊 各約 4,000 部作成と発送

活動報告、新しい方向性、イベント情報等を掲載

②MPPOE ニュース発行

季刊 各約 4,000 部作成と発送

ピースメーカーの活動報告、キャンペーン情報等を掲載

③インターネット・ソーシャルネットワークサービス（SNS）

<五井平和財団>

ウェブサイト、フェイスブック（日英）／X(旧ツイッター) 定期更新

Instagram 定期更新

YouTube 公式チャンネル（日英）

Flickr（フリッカー：オンラインアルバムサービス）

メールマガジン（日英）発刊

<ESD ユース>

ESD 日本ユース・コミュニティ／フェイスブック

ESD ユース参加者運営の SNS

「ESD 日本ユース情報局」フェイスブック／ツイッター

ESD ユース地区ごとの LINE グループ

<地球っ子広場>

フェイスブック定期更新

<社会起業家コンペティション>

オンライン・コンペティション

オンライン・キャンパス

<富士宣言>

ウェブサイト／フェイスブック（日英西）定期更新

メールマガジン

ソウル・オブ・ウィメン／フェイスブック（英）

<Source of Wonder>

ウェブサイト（英）

メールマガジン（英）

YouTube 公式チャンネル（英）

<平和科学調査研究会>

ウェブサイト（会員制）

<MPPOE>

ウェブサイト／フェイスブック定期更新

メールマガジン／ツイッター発刊

④各種行事の動画配信

- ・「講演会シリーズ：21 世紀の価値観」

垣内俊哉講演会 バリアバリュー ～障害を価値に変える～

安西祐一郎講演会 AI の時代をどう生きるか

- ・中高生キャリア支援プログラム「私のコンパス」

松田 文登 「福祉×アート×ビジネス」で人々の意識を変える

- ・設立 25 周年記念五井平和財団フォーラム

PEACE TO PEACE

- ・2024 年度会員総会「報告と感謝の集い」

⑤各種行事の DVD 制作

- ・2024 年度五井平和財団フォーラム

2. 顕彰

五井平和賞

ジェーン・グドール

動物行動学者、自然保護活動家（イギリス）

ジェーン・グドール氏は、長年に亘る野生チンパンジーの調査・研究を通じ、人間と動物の共通性を示す画期的な発見をしました。そして、その知見に基づき、人間・動物・自然はつながり合って生きているという生命観のもと、あらゆる生命が共存共栄する持続可能な未来の実現を目指し、地域に根差した環境保護プログラムの実施ならびに教育啓発活動を世界各地で展開し、人々が自然界への理解を深め、地球のために行動を起こすよう鼓舞してきました。多くの人々に未来への希望を与え続ける生涯をかけた活動の功績が評価されました。

■受賞記念講演 令和6年11月30日（土）

2024年度五井平和財団フォーラムにおいてビデオ出演

■選考委員

委員長	佐藤 禎一	東京国立博物館名誉館長・元ユネスコ特命全権大使（当財団顧問）
	明石 康	国立京都国際会館理事長・元国連事務次長（当財団理事）
	加藤 秀樹	一般社団法人構想日本代表、京都大学経済学研究科特任教授
	黒川 清	東京大学名誉教授、政策研究大学院大学名誉教授
	近衛 忠輝	日本赤十字社名誉社長
	西園寺昌美	五井平和財団会長
	田坂 広志	学校法人21世紀アカデミア学長、多摩大学大学院名誉教授

＊敬称略・50音順

【五井平和賞歴代受賞者との交流】

① Peace Convergence 第2回開催（フォーラムサイドイベント）

2016年度受賞者：ハフサット・アビオラ＝コストロ

2019年度受賞者：ニッポン・メータ

日時：12月1日（日）10：00～15：30（受付開始9：45）

会場：日経大手町セミナールーム

参加条件：フォーラム参加必須

参加費：フォーラム・レセプション・サイドイベント 10,000円

参加者数：50名

② ドキュメンタリー映画「ラディカル・ラブ」上映会

2022年度受賞者：サティシュ・クマール

日時：11月11日（月）19：00～21：20（開場：18：30）

会場：文京シビックセンター 小ホール

参加費：前売 一般2500円／学生1000円

当日 一般3000円／学生1500円

参加者数：341名

3. 研究会等の調査研究

(1) 平和科学調査研究会

- ①全 体 会 令和 6 年度は開催せず
- ②運営委員会 令和 6 年度は開催せず
- ③分科会活動
 - 幸せの価値観：情報収集、調査資料ジャンル別整理等
 - 震災復興：震災から考える日本の未来と自然について調査
 - 科学的事例調査：がん治療事例、宇宙太陽光発電等調査
 - 平和へのシナリオ：平和へのプロセス研究・ディスカッション
 - 自由研究：最先端物理学理解に向けた基礎理論の直観的把握

(2) 平和についての意識調査アンケート

- 目 的：子どもや若者の平和意識を調査し、平和の実現に向けて若者らが必要としていること等を分析、今後の青少年教育プログラム等に反映
- 対 象：2024 年度国際ユース作文コンテスト参加者
- 参加人数：123 カ国 2,019 人（うち日本から 87 人）
- 形 式：任意の選択式
- ・自分にとって一番大切な平和とは何か
 - ・世界が平和になるために、解決しなければならない重要な課題は何か
 - ・平和のためにやっていること、やってみたいことは何か など

4. 駐日外交官等国際交流プロジェクト

(1) 群馬県立女子大学「グローバル・シチズンシップ（大使リレー講座）」

「SDGs の達成に向けて」をテーマに、国際コミュニケーション学部 1 年生
約 70 名を対象とした、全 14 コマ中 6 コマの講義実施に協力。

開講日	講師（敬称略）	テーマ
令和 6 年 5 月 28 日	公益財団法人 五井平和財団 理事長 西園寺 裕夫	持続可能な社会を目指して平和を 考える
6 月 4 日	駐日ジョージア特命全権大使 ティムラズ・レジャバ	ジョージアについて
6 月 25 日	駐日イエメン共和国特命全権大使 アーデル・アリ・アハマド・アル・スナイニー	イエメンにおける教育の取り組み とチャレンジ
7 月 9 日	駐日ブルガリア共和国特命全権大使 マリエタ・アラバジエヴァ	ブルガリア共和国ー女性活躍、そ してヨーロッパにおける IT 先進 国ー
10 月 15 日	駐日アイスランド特命全権大使 ステファン・ホイクル・ヨハネソン	アイスランドの男女平等社会とは
10 月 29 日	駐日タンザニア連合共和国特命全権大使 バラカ・ハラン・ルヴァンダ	タンザニアにおける女性と若者の 役割

(2) 駐日外交官による交流プロジェクト

実施日	実施校（団体）・参加人数	教育課程における位置付け	講師（敬称略）
令和6年 5月11日	中央大学附属高等学校 （東京都小金井市）13名	選択科目	駐日中華人民共和国大使館 教育処 二等書記官 劉 丹 政治部 アタッシェ 黄 宇宏
6月24日	静岡雙葉中学校 （静岡市）約130名	総合的な学習	駐日モルディブ共和国臨時代理大使 シャフラズ・ラシード
令和7年 1月22日	三輪田学園高等学校 （千代田区）約60名	英語科	駐日英国大使館 政治部 二等書記官 エミリー・メテンズ

(3) 日本とモロッコとの学校間交流

千代田区教育委員会、駐日モロッコ王国大使館、ラバト市教育委員会との連携事業として、国際交流プログラムを実施

- 期 間：令和6年7月～令和7年2月
- 参加者：（日本） 千代田区立富士見小学校4年生 985名
（モロッコ） アブデルモーメン小学校1～5年生 約30名
- 概 要：両国の環境学習について動画やスライドを用いたオンライン交流学習を8ヶ月の間に4回行う。交流の前後には大使館による特別授業を実施

5. 2024年度 国際ユース作文コンテスト

ユネスコの「持続可能な開発のための教育：SDGs 達成に向けて（ESD for 2030）」を推進する事業として開催

主 催 公益財団法人五井平和財団

後 援 文部科学省、日本ユネスコ国内委員会、NHK、日本経済新聞社、
日本私立中学高等学校連合会、東京都教育委員会

協 賛 セイコーグループ株式会社、プラス株式会社

テーマ 『対立を超えた私の体験』

応募数 世界152カ国から15,744点

（子どもの部5,511点、若者の部10,233点）

受賞者発表 令和6年10月31日（木）五井平和財団ウェブサイトにて発表

文部科学大臣賞 （各1点）

<子どもの部>対立を克服した僕の経験

ミルザ・チャタク（14歳／ボスニア・ヘルツェゴビナ）

<若者の部>

アドカムジョン・ジャノビディノフ（19歳／ウズベキスタン・米国在住）

優秀賞 各3点

入 選 各5点

佳 作 各25点

学校特別賞 5校

学校奨励賞 16校

- 選考委員 委員長 千玄室（茶道裏千家前家元、ユネスコ親善大使、当財団理事）
 西園寺昌美（五井平和財団会長）
 都倉俊一（作曲家、日本音楽著作権協会特別顧問）
 成田純治（株式会社博報堂相談役、当財団理事）
 服部真二（セイコーグループ株式会社代表取締役会長
 兼グループ CEO 兼グループ CCO）
 松浦晃一郎（アフリカ協会会長、元ユネスコ事務局長、当財団評議員）
 美内すずえ（漫画家）
 矢崎和彦（株式会社フェリシモ代表取締役社長）
 葉祥明（絵本作家）

① 2024 年度作文コンテスト「受賞者の集い」

開催日：12 月 14 日（土）

参加者：上位入賞者 6 カ国 12 名（内日本人 5 名）が参加

内 容：グループに分かれて 2 つのテーマで対話

- ・他の受賞者の作文を読んで、心に残ったこと、感動したことは？
- ・あなたの国がさらに平和になるために解決したら良いことは？

② Goi Peace Youth Community

国際ユース作文コンテスト参加者をはじめ、登録時点で 30 歳以下の世界中の若者を主な対象に、各国の若者リーダー育成のためのプログラムを提供（Zoom および YouTube／英語）

- ユース・イベント「自然と共に育む平和な未来 ～共感力で築く持続可能な世界～」

日時：令和 6 年 7 月 13 日（土）12：00～13：40

講師：ホアキン・レギア ANIA 創設者

内容：ペルーを拠点に、子どもたちに生命への共感力を育む教育活動を行っている ANIA（子どもと環境のための協会）創設者兼ディレクターのホアキン・レギア氏から、持続可能な世界を築くためのヒントなどを聞き、自分たちの生活の場での実践について考える。

参加者：146 名（16 カ国）

- ユース・イベント「自由で満たされた人生を生きるには？」

日時：10 月 12 日（土）11：00～12：40

講師：リン・ツイスト ソウル・オブ・マネー・インスティテュート創設者
 2015 年度五井平和賞受賞者

内容：世界的な慈善活動家、ファンドレイザー（資金調達の専門家）のリン・ツイスト氏より、自由で満たされた人生を生きるためのヒントを聞き、自分自身の人生のあり方について考える。

参加者：74 名

6. 地球っ子広場

（1）地球っ子広場各地区展開 事業見直しのため休止

- 活動趣旨 子どもたちが放課後や休日に、広く社会と触れ合える居場所を創設し、保護者、地域の人々が集う、良き地域コミュニティを目指し、生命・平和・環境等を大人と子どもが共に学ぶ広場を運営

- 後 援 ユネスコ国内委員会

- 認定事業 ユネスコ本部より「ESD の 10 年の公式活動」認定を受ける

(2) 地球っ子広場夏休み特別企画「ワールドピースゲーム in 東京」

日 時：7月30日(火)～8月3日(土) 9:00～12:00

場 所：ケイ・インターナショナルスクール東京

共 催：一般社団法人 ワールドピースゲームジャパン

対 象：小学4年生～中学1年生

参加条件：5日間連続で参加できる方

参加費：18,000円

参加者数：26名

内 容：米国の小学校教師ジョン・ハンター氏考案の非暴力の思想に基づいた課題解決型の教育シミュレーションゲーム

仮想国家、国連、世界銀行などのチームに分かれ、協力し合いながら

「全ての課題の解決」と「すべての仮想国の資産をスタート時より増やす」ことを目指す

7. 社会起業家育成プログラム

シチズン・アントレプレナーシップ・コンペティション (英語サイト)

内 容：国連の持続可能な開発目標 (SDGs) の達成に資するアイデアやプロジェクトを募り、あらゆる世代に社会起業を奨励・育成するオンライン・キャンパスおよびオンライン・コンペティション

主 催：五井平和財団、スティッフタング・アントレプレナーシップ財団

期 間：3月～8月31日

選考方法：ウェブサイト上の一般投票で上位10位までのファイナリストを選出し、選考委員が最優秀賞、2位、3位を選考。

一般投票で最多得票を集めたエントリーにピープルズ・チョイス賞を、13歳から29歳を対象にヤングスター賞を授与

選考委員：ギュンター・ファルティン (ベルリン自由大学教授)

西園寺裕夫 (五井平和財団理事長)

ベルナード・コム (UNESCO 持続可能な開発のための教育プログラム・スペシャリスト)

パメラ・ピータース (Institute for a Sustainable Planet / Executive Director)

カースティン・フォスバーグ (Planeta Océano 創設者)

エディオラ・パショラーリ (World Assembly of Youth 事務局長)

ラヴィ・チョードリー (シーネクスト・コンサルティング & インベストメント会長) 他

<1位>

ダーママーカー／アライ・カマリエワ (プロジェクト／女性／カザフスタン)

SDGs 目標3：すべての人に健康と福祉を

ほくろの画像を人工知能 (AI) で分析し、悪性の皮膚疾患を診断できるウェブサイトプロジェクト。

<2位>

オーソジェンクスの次世代整形外科インプラント／サハド・ヴァリアニ、
アドウェイ・クルカルニ、オム・ナムデヴ・チャヴァン
(プロジェクト／チーム／アメリカ)

SDGs 目標 3：すべての人に健康と福祉を

SDGs 目標 9：産業と技術革新の基盤をつくろう

SDGs 目標 12：つくる責任 つかう責任

歯や骨を補強するために体内に埋め込むインプラントを、天然に存在する
アパタイトカルシウムを活用した生体親和性の高いハイドロキシアパタイ
ト（HA）でコーティングした次世代整形外科インプラントを開発するこ
とで、患者の負担軽減を目指すプロジェクト。

<3位>

フラウエッティ／チーム・リランダー（アイデア／チーム／ベトナム）

SDGs 目標 12：つくる責任 つかう責任

SDGs 目標 13：気候変動に具体的な対策を

SDGs 目標 14：海の豊かさを守ろう

イベントを盛り上げてくれる紙製吹上げ花火のカートリッジを環境に配慮
した再生紙でつくり、植物の種子を埋め込むことで、廃棄物の削減と植林
を促すアイデア。

<ヤングスター賞>

皮膚炎患者のバーチャルコンパニオン／クイン・アン・ドアン
(アイデア／女性／ベトナム)

SDGs 目標 3：すべての人に健康と福祉を

皮膚炎患者の症状、生活習慣、環境条件に関するデータを収集し、AI を
使用して治療の提案をするアプリを開発するアイデア。

<ピープルズ・チョイス賞>

ごみから宝物へ／サマンサ・リユー（アイデア／女性／アメリカ）

SDGs 目標 10：人や国の不平等をなくそう

SDGs 目標 11：住み続けられるまちづくりを

SDGs 目標 12：つくる責任 つかう責任

廃棄物削減のために、不用品をアップサイクル（別の用途で付加価値を与
える）してリサイクル販売するアイデア。

8. ユネスコ活動・ESD・SDGs 推進事業

（1）ユネスコ活動・ESD 関連事業

1. ユース同士の連携や活動への支援

① GOALS～学校協働 SDGs チャレンジ～

日 程：令和 6 年 3 月～12 月（14 回実施）

参加者：晃華学園中学校高等学校、千葉県立柏陵高等学校、麗澤中
学・高等学校の生徒 24 名、担当教員・サポーター 9 名

共 催：環境省環境再生・資源循環局

概 要：ユネスコスクールを中心とした首都圏 3 校と協働した探究
学習プログラム。福島県いわき市の社会起業家の協力のも
と「中高生による中高生のための『福島、その先の環境へ
ツアー』」を実施し、中高生 22 名を福島に案内。

場 所：東京都内、福島県いわき市、福島県双葉郡双葉町 等

② 公立小学校の平和学習での連携

日 程：令和 6 年 10 月 25 日（金）

参加者：奈良市立三碓小学校 6 年生 114 名

奈良市立東登美ヶ丘小学校 6 年生 128 名

概 要：総合学習における平和学習の単元で、広島県の NPO「カクワカ」共同代表がオンライン授業を行う。

③ ユネスコスクール全国大会分科会

日 程：令和 6 年 11 月 30 日（土）

参加者：ユネスコスクール関係者 13 名

概 要：ESD 日本ユースメンバー 2 名が登壇し、「社会との相互作用を通して創る探究の学び」をテーマにワークショップを行う。

④ ESD 関係団体との連携

年間を通じて、公益財団法人ユネスコ・アジア文化センターをはじめとする全国の ESD 関係団体と連携。

2. ESD ティーチャープログラム

日 程：令和 6 年 6 月～10 月（4 回実施）

参加者：ユネスコスクール等の教員 10 名

概 要：奈良教育大学 ESD・SDGs センター、近畿 ESD コンソーシアム主催の教員向け研修プログラムの東京会場を共催。

ESD 適切に指導できる教員に求められる資質・能力を明らかにし、その力量形成を目的とする。

3. ユネスコスクール支援

千葉県立市川昂高等学校

「開かれた学校づくり委員会」に委員として参加

4. ESD 岡山アワード

ESD 岡山アワードを運営委員としてアワード審査員を担当

(2) SDGs（持続可能な開発目標）推進事業

① 令和 6 年度 SDGs キャンパス・ミーティング

日程・会場：

■令和6年8月18日（日）ビジョンセンター市ヶ谷（東京都）

講 師：萩生田 愛／AFRIKA ROSE 創業者、スローフラワー協会代表理事

夏目 浩次／久遠チョコレート代表

河野 晋也／大分大学教育学研究科准教授

テーマ：想いを持って社会を変える

対 象：高校生・大学生

参加者：44 名、オブザーバー：4 名

概 要：持続可能な社会づくりに取り組むソーシャルイノベーターから、取り組みや生き方を学ぶと共に、高校生・大学生が SDGs を自分事として捉え、意識や行動の変容を促す。

② 2024 八千代子どもサミット

講師として計 3 日間参加

8. 青少年育成に係る若手指導者養成奨学金事業

特別奨学生（海外留学）1 名を採択

大越光介 オタワ大学大学院博士課程（カナダ）
スポーツ界におけるガバナンスの専門知識を習得し、マネジメントや組織運営、コーチの育成に生かすことで、青少年の健全な育成に貢献することを目的とする
就学期間 2 年（令和 7 年 9 月から）

特別奨学生 2 名に継続支給

吉岡瑞貴 リスト・フェレンツ音楽大学大学院修士課程（ハンガリー）
柏木舞波 ジョージ・フォックス大学大学院修士課程（アメリカ合衆国）

選考委員（委員長）成田 純治 株式会社博報堂相談役（当財団理事）
魚谷 雅彦 株式会社資生堂代表取締役社長兼 CEO
西園寺裕夫 公益財団法人五井平和財団理事長
竹田 恆和 日本オリンピック委員会前会長
都倉 俊一 作曲家、一般社団法人日本音楽著作権協会特別顧問
服部 真二 セイコーグループ株式会社代表取締役会長
兼グループ CEO 兼グループ CCO)

附属明細書

令和 6 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

令和 7 年 4 月

公益財団法人 五井平和財団